

望月陸夫* ホロムイスゲの一新変種

R. MOCHIZUKI*: A new variety of *Carex middendorffii* FR. SCHM.

秋田県と青森県との県境一帯は標高 1000 メートル級の山岳が連なっていてそのほぼ中央部に田代岳 (1178 メートル) がある。付近の山はほとんど頂上までブナの原生林におおわれているが、田代岳においては標高 1100 メートルより、ミネカエデ、ナナカマド、ミネヤナギ、タカネザクラ、ウラジロヨウラク、アカミノイヌツゲ、ダケカンバ、チシマザサなどからなる幅の狭い亜高山性低木林帯があり、これにかこまれて、ヌマガヤ、ワタスゲ、ミズゴケなどを優占種とする 10ヘクタール位の湿原が存在する。湿原内には 100 個を越える小池塘を含み景観的にも興味深い山である。

この湿原の一隅に既知の種類とは区別できるスゲ属の植物の一集団を見出したのであるが、精査の結果、ホロムイスゲの一新変種と認め記載発表することにした。

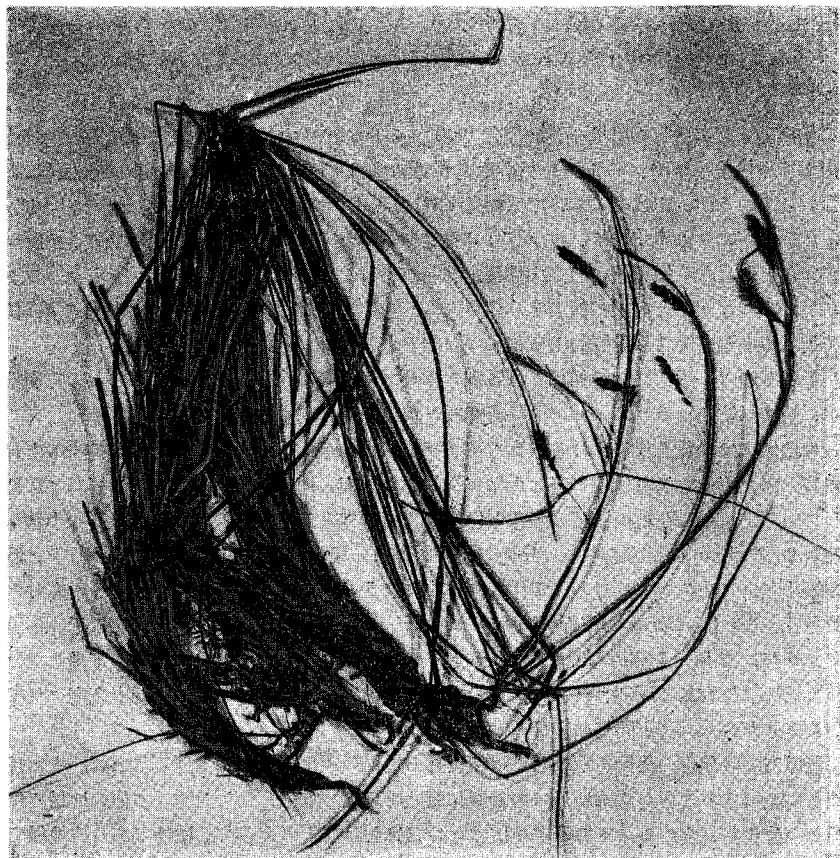
本地域には母種と想定されるホロムイスゲも産するが、本変種との外観を比較すると、根茎、茎、葉など栄養体の形質は本品が全体やや繊細、細長であること以外は極めて類似している。しかし花穂の様相は別種と思われるほど相違する。すなわち、側(雌)小穂が長さ 2—3.5 cm でより細長く、雄性部がないこと、果胞は 10—20 個で粗に着くこと、雌花鱗片がより淡色であること、鱗片、果胞が長さ 5—5.5 mm でやや細長であることなどである。これは *Carex middendorffii* var. *kirigaminensis* キリガミネスゲに近い形質であるが、花梗は上部のものでも 3 cm ほどの長梗を有し、しかも點頭ないし下垂していることにより容易に区別される。以上のような特徴からホロムイスゲの変種と認定されているキリガミネスゲと同格の変種と考えるのが妥当である。

湿原内では独立の集団を形成し、母種以外の近縁種および中間型は見られない。また稔性も完全であることから本地域での雑種起原は考えられないし、したがって他の地域で母種から分化し、別のルートで分布を拡げたのではないかと考えられる植物であり他地域での発見を期待する。本研究にあたり、御指導をいただいた岩手大学教育学部の菊地政雄教授に御礼申し上げる。

Carex middendorffii FR. SCHMIDT var. *tishirodakensis* R. MOCHIZUKI,
var. nov.

Rhizoma descendens caespitosum estoloniferum validum. Culmus 50—60 cm altus firmus acute triqueter scabriusculus. Folia rigidiora 2—3 mm lata. Vagina spadicea vel raro rubescens, aphylla, demum reticulata. Spiculae 3—4; superioribus 1—2 masculis 2—3 cm longis; inferioribus 2—3 feminis cylindraceis 2—3.5 cm longis. Pedunculi elongatim longiores 2—3.5 cm longi, filiformes scabriusculi, cernui vel penduli. Bractae imae breviter foliaceae ca. 10 cm longae. Squamae feminae oblongae fuscae obtusae. Utriculi oblongi longiores 5—5.5 mm longi, cinereovirides planoconvexi punctulati nervosi; margo

*秋田県立大館鳳鳴高等学校



タシロダケスゲ *Carex middendorffii* FR. SCHMIDT
var. *tashiroadakensis* R. MOCHIZUKI (Typus)

acutus, rostris brevioribus. Achenia laxa late obovata subplanoconvexa ca. 2 mm longa ; stylis rectis firmulis ; stigmatibus 2. A typo spiculis femineis cylindricis 2—3.5 cm longis, pedunculis elongatim longioribus, utriculis oblongis longioribus 5—5.5 mm longis differt. Rhizomata caules folia et femineo-spiculaeque circter ut in var. *kirigaminensis*, sed pedunculis longe elongatis cernuis vel pendulis a ea distincte distat.

Nom. Jap. Tashiroadake-suge (nom. nov.)

Hab. in Japonia Akita : monte Tashiroadake (leg. R. MOCHIZUKI, 31 Jul.1968)
typus in Herb. Fac. Educat., Iwate Univ., Morioka